

## 東京アイランドを結ぶ船

東京アイランドを結ぶ船には「大型貨客船」「カーフェリー」「高速ジェットフォイル」があり、航路別に東京から父島までを結ぶ「おがさわら丸」、東京から三宅島、御蔵島を經由して八丈島を結ぶ「橘丸」、東京から伊豆大島を經由して利島、新島、式根島、神津島を結ぶ「さるびあ丸」、そして海上を43ノット（時速80km）で航走するジェットフォイル（さるびあ丸と同航路）が、東京アイランドを身近なものとしている

### ■ 3代目「さるびあ丸」

1973年に初代、1992年に2代目が就航し、約半世紀に渡り東京諸島の島民をはじめとする多くの人々に親しまれた船名で、3代目も「さるびあ丸」を継承した。船体のカラーリング・デザインは、美術家の野老朝雄氏が手掛けた。東京諸島を流れる黒潮をイメージした「東京アイランドブルー」と名付けた藍色を使用し、大海原を進む力強さと、どこか懐かしく親しみを感じるカラーデザイン。

東京・竹芝桟橋から各島々をつなぐ本船のコンセプトは、人と人、過去と未来を「繋ぐ」ことであり、多くの人々に笑顔と元気を届けたいとの思いが込められている。

### ■ 橘丸

1935年に建造され、1973年まで活躍した先代の「橘丸」の名前を引き継ぎ2014年6月に就航し、東京と三宅島・御蔵島・八丈島を結ぶ。オリーブ色と黄色のカラーリングで、輝く太陽をイメージする「橘丸」。東海汽船に就航する船舶では初めて、ディーゼル機関と電動アジマススラスタを組み合わせた複合推進システムが採用され、電気推進システムを用いたスーパーエコシップ旅客船。

### ■ JF セブンアイランド結

ジェットフォイル（JF）は離島航路になくてはならない船と言われ、タービンエンジンでウォータージェット推進機を回して海水を噴射し、前後2組の水中翼に発生する揚力で海面から浮上して航走する。

「セブンアイランド結」のネーミングとデザインは、島と本土を「繋ぐ」というコンセプトが込められており、デザインカラーは東京諸島を流れる黒潮をイメージした「東京アイランドブルー」。